

## 下小山田町内会説明会 会議要旨

開催日時：2013年6月15日(土) 19時00分～21時15分

開催場所：小山田会館

参加者：36名

### 《次第》

1. 新たな「ごみの資源化施設」について
2. 建設予定地の選定について
  - \*「町田リサイクル文化センター」（下小山田町3160番地）検討概要の説明
  - \*「上小山田西部エリア」検討概要の説明
3. 質疑応答 19:30～

### 〈配布資料〉

資料1：新たな「ごみの資源化施設」の建設地周辺にお住まいの皆さんと話し合いを進めます。

資料2：ごみ資源化施設建設 NEWS (vol.4～6)

### 質疑応答

(市民)

家庭用生ごみ処理機のチップの分解力が落ちている。家庭用生ごみ処理機は10年以上経っている所が多く、修理も必要になってきている。それはどこに頼めば良いか。

(町田市)

付属品はまだ販売されているはずです。

(市民)

生ごみ処理機で3,000トン処理する計画があるならば、なぜ、リサイクル文化センターにチップを用意できないのか。

それから、生ごみ処理機の修理は可能であるが3万円から5万円ほどかかる。これを市が一括してやる気は無いのか。

(町田市)

家庭用生ごみ処理機については、普通の電化製品と同じなので10年くらいすると故障などは出てきます。

(市民) 有料でもいいからリサイクル文化センターに部品やチップくらいは用意してほしい。有料でもいいけれど、3万円から5万円もかからないくらいのことをやってほしい。

(町田市)

用意できるものは、検討していかなければならないとは考えています。

(市民)

今回ごみ焼却炉を 3 基から 2 基に減らすという事だが、修理のときはどうするのか。2 基になってしまうと、片方を止めると処理できる量が半分になってしまう。ごみが溜まるのではないか。対策は考えられているのか。

それから、バイオガスは約 60%がメタンと書かれているがそれ以外の 40%はプロパンとかブタンとか出ることか。もし出るのであれば、メタンは空気より軽いから飛んでいくが、ブタンなどは空気より重いから溜まって爆発する恐れがあると思う。

(町田市)

法令に従い、焼却炉を停止して電気設備、ボイラ、発電機などの定期修繕を行います。それ以外に突発的な停止もある事を想定して、2 基としています。また、町田市は多摩ニュータウン環境組合と広域連携をしており、突発的なときは、多摩清掃工場に処理をお願いします。ごみを溜めるスペースについても今よりも長い期間溜められる施設としたいと考えています。

次に、バイオガスについては、メタンを除いた残りの約 40%は二酸化炭素です。微量に硫化水素などが含まれますが、硫化水素を取り除く脱硫設備を設置して処理します。発酵槽と脱硫装置の後の、ガスホルダーではガスホルダー内のガス圧を測定しており、安全装置が働きますので、漏れたままになることはありません。

(市民)

それは実験設備で確認するのか。

(町田市)

爆発する状況を作ることは難しいので、設備として実験することは考えていません。

(市民)

バイオガス化施設の実証実験はいつどのような形でやる計画を立てているのか。

(町田市)

実証プラントを造って、町田市で発生する生ごみがどのような状況になるのかということは、現在は考えていません。既に導入している自治体があり、その生ごみの組成や、町田市の組成調査を検討している段階です。町田市では何年も前から燃やせるごみの中の生ごみと、その生ごみがどういう状況で入ってきているかについて分析をしています。その分析結果をもって、他市の状況と比較して、実際の施設について検討していきたいと考えています。一例ですが横須賀市で実際に実証プラントを稼働させ、ガスを CNG の燃料にしており、結果的に出てくるものが確認できています。また他市で実際に稼働している施設で、まったく問題無くバイオガスが出ている事も確認しています。実証設備を造るには億単位の金を使うことになり、造って実証実験をやることで一過性のデータにしかありません。それよりも、実際にガスが出るかどうかについては、例えば、テーブルテストでもできますし、他市のデータとの比較調査でもできますので、先事例と町田市がこれまでやってきた生ごみの分析結果を基礎データとしたいと考えています。

(市民)

今話を聞いていると腹立たしく思う。前回の説明会では「実証実験をする」と言ったでは

ないか。もうひとつ、今日配られた印刷物は、前回とそっくり同じである。対象者が違うと言いたいのかもかもしれないが、参加する多くの人たちは前回の説明会で心配なこと、配慮してほしいことを話したので、それを受けて資料を出してほしかったがそれが何もない。

私達は煙突を見て暮している、ゴミの問題で、私達は新しく住んだ者でそれほど苦労はしていないと思うが、やはり地元の皆さんがゴミ問題で苦労されてきている住民感情など、前回お伝えしたつもりであるが、それに対する答えが何もない。そういう事を考えたときに、説明会をやったということだけでそのひとつに今日の会もなってしまうのかと思う。

(町田市)

前回、町田リサイクル文化センターで開催した説明会では、清住平にお住まいの方にご説明をしております。

実証実験をしませんとは言いません。町田市の燃やせるごみ中の生ごみの調査をすることは実験であると思っています。ただ実証施設を建設することとは一緒では無いと思います。前回の資料と同じと言われたのは、その通りです。本日は下小山田町内会地区にお住まいの方にお出ししていますので、清住平の方には既にお出ししていますので資料としては同じです。実証実験の事が書いていないということは、たしかに建設ニュースにも書かれていませんが、今後、載せていきます。

(市民)

今、実証実験の話が出たのでコメントさせていただくが、確かに焼却炉の安全性については全国で何千基と実績があるので私は信頼していいと思っているが、バイオガス化施設については、まだ確立した技術レベルにはなっていないと思う。町田市の場合は、大型の生ごみ処理施設の実証実験は新しくやるべきであると思う。実証実験を他市が安全だから、町田市でも安全だというのであれば、原発と同じである。町田市の行政の方が肥料化なりやるべきである。そしてバイオガス化施設については、市民が安心して受け入れられるような実験をやっていたきたい。

私どものNPOでは、実証実験はやるべきであるという事を提案している。バイオガス化施設だけはそんなに高い設備では無いので、新しく設置するのであれば、地域住民の安心を得るためにも実証実験をお願いしたい。それから、これは資源化施設ということになっているが、生ごみでメタン発酵して残さは燃やすのであれば、資源化になっていない。資源化というのは、生ごみを土にかえして物質循環をさせるということである。これは物質循環になっていないので、資源化というカテゴリーには当てはまらないと思う。

それから、新しいバイオガス化施設も含めて環境負荷がどのようになっているのかお聞きしたい。とくに二酸化炭素発生量はどのくらい減るのかについてお知らせいただきたい。

(町田市)

一つ目は先ほどの質問の確認でしたので、それと同じお答えです。

二つ目の発酵残さが資源化にならないことについては、可燃ごみを機械選別して生ごみや紙ごみを取り出したものの中には、プラスチック等ビニール袋が混ざっているので、例えば脱水して乾燥させて空気で飛ばし、堆肥にすることは調査をしています。できる可能性につて

は、他市で稼働中の施設を視察し確認しています。

二酸化炭素排出量は、町田リサイクル文化センターから約 3 万 7 千トン排出しています。ごみは 4 割削減するとしていますが、二酸化炭素は 1 万 4 千トンでおよそ半分にする予定です。

(市民)

2013 年に町田市周辺まちづくり協議会が開催されると書いてあるが、どんな人たちがどんなことを検討するのか。周辺の地区の人がメインで考えるのでは無いのか。よその地区の人に言わせても、南地区の友達に聞くと、「それは小山田の問題だろう」という。その人たちが、私達のことなんて解るはずがないし、考えてもいない。その人たちの意見を聞いて何になるのか。

(町田市)

周辺まちづくり協議会は今年の 2 月から始まりました。メンバーは学識経験者が 2 名、自治会町内会の地区長を代表された方 6 名です。

地区の意見は、別に地区連絡会があり、そこで地区の意見をまとめていただくことになっています。施設建設地は、町田リサイクル文化センターの他、資源ごみ処理施設が新たに 2 箇所合計 3 地区ありますので、それぞれの地区連絡会に持ち寄っていただき、施設周辺の議論をまとめていただきます。周辺まちづくり協議会というのは、今申し上げた町田市全体で考えていこうという組織で、各地区の要望を受けて、町田市全体の課題として考えていく組織です。

地区連絡会は町田リサイクル文化センター周辺の町内にお住まいの方の代表に集まっています。例えば、「この問題については町田市全体で考えてもらわないと改善されない。」といったご意見を議論していただく場が、周辺まちづくり協議会です。つまり、地区連絡会でいただいた提案を、町田市との直接のやりとりではなく、市民が出すごみなのであるから市民みんなで考えてほしいということで、周辺まちづくり協議会があります。市民ひとりひとりの意識を上げるためにこのような組織を作ります。

(市民)

バイオガス化施設に納得がいかない。循環型施設整備基本計画検討委員会でどんなえらい方が検討されてこういう結果を出したのかわからないが、建設ニュース 6 号のバイオガス化施設の概要で、ガスを利用しますと書いてあって、その利用量を見てびっくりした。収集車の 1 日 31 台分で、電気にすると一般家庭の 1000 軒分であり、1 軒あたり 10kWh で計算と書いてあるが、うちは 40 kWh 使う。町田市の人口は 42 万人くらいで、世帯数で 18 万世帯くらいだと思うが、30 何億円もかけて大きな施設を造り、たった 31 台分の収集車のガスしか回収できないのか。すばらしい施設で二酸化炭素が半分になりますとか聞かすが、私はここに住む住民としてバイオガス化施設は要らない。焼却炉を新しくするだけで充分であると思う。それだけのお金をかけても、税金は私達が払うのだし、30 何億円かけて建てても、メンテナンスで毎年何億円とかかるのであれば、その分のお金を計算し、よく考えて行政は

計画をしてほしい。一般廃棄物資源化基本計画通りに進めていると言っても、その計画自体が納得できないし、普通に計算してもリスクを背負ってまでやる必要があるのか。

(町田市)

バイオガス化施設に納得がいかないというご意見は、町田リサイクル文化センター周辺だけではなく、他の地区からもいただいています。

しかし、バイオガス化施設は、微生物がガスを勝手に発生し、エネルギーを造ることができます。そのエネルギーで災害時でも例えば周辺に供給することは可能ですし、焼却施設を動かすためのエネルギーを造ることも可能です。町田市として何をしなければならないかと考えたときに、焼却炉を大きくして全量焼却することが果たしているのかということはごみゼロ市民会議 2006 年からずっと議論されてきています。2011 年に策定しました町田市一般廃棄物資源化基本計画では、焼却量を削減することで、大きな焼却炉は造らないという事が基本となっています。このことはご理解いただきたい。

(下小山田町内会役員)

ちょっと待ってください。

今日は、下小山田町内会への説明会ということですから、下小山田町内会会員の質問を受けてください。他の自治会の方は後でやってください。まだうちの町内会は 1 人しか質問していません。

(市民)

私は副市長から、今回答申された中で、町田リサイクル文化センターではない場所に造ることになったと直接聞いた。そうしたら 10 日後位に連絡があって、この間話したのは変更になって、町田リサイクル文化センターに造ることになったと聞いた。どこまでご存知か知らないが、そんな大事なことが、言われて 10 日程度で変更されてこの場所に決まったという経過を説明いただきたい。

(町田市)

建設候補地としては、最終的に 2 箇所ありました。最後に残った 2 箇所について、町田市として将来計画を考えたときにどちらにしようかと考え、地元の御意見も頂きながら検討した結果、町田リサイクル文化センターに決定しました。正式に決定したのは 2 月 4 日の経営会議で、2 月 6 日の市長記者会見で公表しました。

(市民)

二酸化炭素排出量が減るというお話があったが、ガスを燃やしてガスエンジン発電でも二酸化炭素が出るし、二酸化炭素排出量はごみの処理により変わるのでなく、どうやっても二酸化炭素が出るのは同じではないか。エネルギーに使えるのはいいことだと思うが、科学的な話では減らないのではないか。

(町田市)

二酸化炭素排出量が減るというのは、町田市全体で焼却しているごみ年間 10 万トン を 6 万

トンに削減し、プラスチックを燃やさず資源化することで 40%削減する、その数字が二酸化炭素に換算すると 1 万 4 千トンになるということです。

(市民)

2020年に運転開始と書いているが、そのためには40%減が達成されなければいけないのか。施設の整備工事が2017年に始まると書いてあるが、2016年度で40%減を達成しないといけないのではないのか。そうでないと、小山田45年、50年とやってきたことに住民は納得できないと思う。小山田の人は真剣に考えているが、他の地域ではまったく関心がない。ならば、町田市としても2016年度に40%削減を達成させなければならないと思う。もし、達成できなければ2017年度に工事を開始しない。つまり施設整備はやらず、造らない事を考えて計画しなければならないと思う。

(町田市)

2017年度までに減らし、それで2020年度を迎えるのは理想であり、そうしなければならないと思っていますが、例えばプラスチックを焼却しているうちは減りません。また生ごみ処理機の普及については、個人の意識が高くなければ普及はしません。それを2016年度までにとということになると43万人近くいる市民全員がそのような意識を持つのは非常に厳しいと思います。

燃やすごみの中からプラスチックごみを減らすということについては、市内一部の地域で先行してプラスチックを集めて資源化したいと考えています。それをすることで市民が分別する意識が出てくると思います。

(市民)

40%削減を達成してから工事を開始するべきである。

(町田市)

今の焼却施設は、すでに30年稼働しています。2020年度以降に、建設工事となると老朽化している施設でさらに運転しなければならないりますので、これは避けたいと考えています。絶対安全とは言うことはできませんが、安全装置が働くということは実証されている設備なので、速やかに建て替えたいと考えています。

(市民)

この地域が町田市の中で一番整備が遅れている場所だと思う。私が住む地区の集会所は小山田緑地の中に入っているが、東京都の緑地事業に協力しようということで、移転することに決めた。今度は町田市の土地に造らせてもらうということで、それはすぐにOKになった。もう契約は済ましており、現在の集会所は取り壊さなければいけないが、市が貸してくれる土地には残土が山ほど積まれていて、新しい土地はいつごろ使えるようになるのか聞いても、一向に返事をくれない。何回も電話して、この間やっと多少の答えをもらった。この地域のことでは他よりも格段に違った、住民が喜ぶような予算をいっぱい使っていただくことが、この事業を進める第一前提であると思う。この地域から出た問題については、優先してやれ

るように市の中で特別窓口を作り、他の地区より優先して、この地区の要望について出来る限りこたえられるようにしてほしい。

この事業はどうしても作らなければならないものなので、他に決めることができないとしたならば、この地域に対してみんなが喜ぶことをいろいろやるしかない。それをやる意欲というか、行政のどこかに、責任もって良い答えを出す専門のチームを作って、この地域を他よりも良くしようとしてほしい。

そこに住んでいる人が他の人よりも、他の地域に恩恵を与えている地域なのだから、少なくとも唐木田に行くバスについては、いくら赤字路線であっても市として第一優先でやりますと、そんな答えさえ返ってこない。町田に出るよりは始発の唐木田でこの地域の人がスムーズに行けるよう、赤字でも本数をいっぱいいつでも行けるように、すくなくともそんなことはやって、こういう迷惑施設についてはこの地域で是非受け取ってくださいという説明をしてほしい。

(町田市)

地区連絡会で代表の方からそういう意見をいただいて、それをこちらに反映するのは一つの方策ですが、今言われたことは、行政の中でもできる話です。例えば環境資源部でこれをするとは言い切れないのも事実ですので、町田市の各部の部長クラスを集めて、事業推進本部を立ち上げました。いろんな関係部署が出てきて、今言われた意見は環境資源部が直接的にできることではありませんが、行政でできるならば行政でやろうという会を立ち上げました。その場で答えることができなくても、これから反映するような仕組みは作っていきたいと思います。

(市民)

説明はいくらでもうまいこと言えるけれども、そんな推進会議ができたとしても現実的な所で、集会所は私個人のことじゃないのに。いつになっても使えるようにしてくれないってこんなことがあるのか。現実に動いてくれないと理解できないから言っている。

(町田市)

地域のご要望については、例えば 20 年前に工場内に 4 号炉を作りましたが、その時にも、地元から 20 数項目の要望をいただきました。それにつきましては、少し時間がかかりましたが、昨年度すべて完了して、お約束を全部果たしたところです。これからも、さまざまなご要望をいただくことになると思いますが、とくにバスの問題については、地元の問題として理解しており、持ち帰って全庁的に考えていきたいと思っています。その他様々のご要望がおありでしょうが、地区連絡会でまとめていただいて、ご要望をお寄せいただきたいと思っています。とくに、今の集会所の移転先につきましては、状況を確認し、対応を連絡させていただきたいと思っています。

(市民)

周辺まちづくり協議会の件だが、町田リサイクル文化センター周辺と、下小山田と、町田市全体で考えられると思うが、町田市の事を何もわかっていない連中が集まってる所に持ち出して、ごみ処理施設の問題を議論して、小山田地区から一人か二人出てきたって、結局は多

勢に無勢になる。大して経験無いような委員、町田市の事をわかっていない学識経験者が出てきて、「小山田に金を使う事は無い」という意見が多分出る。私はこの問題については、小山田として皆さんのいろいろなご意見を聞いて要望を出すつもりである。

周辺の町内会の意見でも、小山田と考え方が違うと思う。小山田は、調整区域が多くて、下水など設備投資が全然できていない。そういう状況の小山田の意見と、町田リサイクルセンターの桜美林側の町内会とは考え方は違ってくる。意見をまとめて、街づくり協議会に持ち上げてなんて、そんなこと私ははっきり言ってやってもらいたくない。そんなことやるならば、この問題を私は蹴飛ばす。ああいう連中は信用できない。町田市が合併した町だってことさえわかっていないような連中に出てこられて、勝手なこと言われたのでは困る。

私は下小山田の意見を市長に直接取り上げてもらわないと、協力できない。町田市全体でごみの減量化は大いにやってくれればいい。下小山田に造るにあたって、下小山田地区にどういふものを還元しようかというときも、「下小山田にそんなものいらないだろう」といわれる可能性が出てくる。周辺まちづくり協議会の意見なんて私は聞きたくない。

(市民)

地区連絡会については、地域の住民の方々の意見を組み入れる会と言われたが、今日の資料を見ると、メタン発酵して、生ごみをどういう風にするのすっかり計画ができあがっている。もしこの地域の人が、バイオガス化施設は危険だから、実証実験してくれと言ったら、それをきちんと受け入れられる委員会か。そうでなかったら、こんな委員会作ったって、単にシンボルとしてあるだけで、何ら下小山田の意見を受け入れる委員会にならないと思う。前の検討委員会のときもそうであった。だから会長が辞任されたということになった。下小山田地域あるいは上小山田地域は、こういう施設を持っていて特別な状況にある。だから、私はバイオガス化施設はできるだけ分散化して、もしメタン発酵やるならば、メタン発酵は小さくてもできるのであるから、南地区に一つ造りなさいと、そういうことも実証実験をやりなさいと言い続けている。しかし、そういう事はやらないで全部一極集中するならば、地区連絡会を作っても意味が無い。かえってこういう会をつくりましたからという行政の口実にはなっても、具体的な地域の住民の意見を取り入れることにはならないと思う。

(町田市)

検討委員会で下小山田のことを理解していないととらえられたことは、会長がこの地域に思いが強いことからと感じました。そういう会をまた造ることは考えていません。それから、バイオガス化施設は、危険だからやめてほしいという話になっても、そこについては、町田市として方向性を出したものですので変えることはできません。ただし、規模や中身について、基本設計をこれからしていく中で、地区連絡会の御意見をいただくことは当然の事だと思います。ただ、バイオガス化施設を作らないかと聞かれると、造ります。そこは町田市として43万人の生活を円滑にするために、市の使命であると思っているので、これに付いては市長が方向性を出していますので、申し訳ありませんが方向性は変わりません。

(市民)

地区連絡会、周辺まちづくり協議会は作ってもらって、実際に下小山田地区に造るにあたっての対策については、下小山田地区住民だけを対象にした協議会でまとめた。周辺を入れるとややこしいことになる。市街化区域の整備されたところとではなくて、下小山田地区の意見だけを聞く連絡会を特別に作ってほしい。下小山田地区は周辺とはちがうのだから。

(町田市)

周辺まちづくり協議会によその者を入れてもしょうがなく、腹立たしさを覚えるということでしたが、逆に地域の要望を町田市全体の課題としてとらえていただく場としたいと考えています。

(市民)

委員として出ればその地域のことしか言わなくなる。一緒じゃないということを理解してもらわなくちゃ困る。下小山田は、忠生や根岸と同じじゃない。

下小山田の住民には市長に説明してもらいたい。下小山田は特別なことをやらなくちゃいけない地区である。

(市民)

漁業補償だって原発補償だってその地区だけである。そういうことをあなたは考えたことがあるのか。地域の人のことを考えなさい。

(町田市)

周辺町づくり協議会の趣旨は、全体の場に持って行って意見を消してしまおうというものではありません

(市民)

他の地区から要望がたくさん出てきたら小山田のことができなくなる。

(町田市)

地区だけの問題では無く、町田市全体の課題として捉えていきたいということを町田市全体にアピールしていきたいと考えています。

(市民)

全体の立場に立って考えなくていい。施設を作る地元に対してどういうもの作るということだけを考えてくれればいい。

(町田市)

行政としては、市民全体の同意という事で進めていきたいという思いがあります。

(市民)

それでは建設は反対！

(市民)

下小山田に金をくれとか言いたくないが、原発のところなんか交付金をもらっている。範囲が難しいとは思いますが、固定資産税を減額とかそういう事を考えてもいいのではないかと。施設が造ることは決まっているのだから、ゼロにすることはできないにしても、10%、20%減額することくらいはしてほしい。税金の担当部署にできるかどうかは別の問題として、言っていただきたい。先ほどの人の意見を聞いていると、そういう事もありうるのかなと思った。

(町田市)

固定資産税の見直しについては、一般廃棄物資源化基本計画を作る段階で、そうした施設を造る周辺にはそういう事を考えたらどうかという議論も実は出ました。その際、今おっしゃったように具体的に、どのくらいの範囲にするのかというところで、結局はまとまりがつかないのではないかと断念した経緯がある。但し、ご要望として、税務の方にはお伝えします。何がこの地域にとっていいのか、是非ご意見を出していただき、庁内で公表していきますので、その中で関係部署には当然働きかけはしていきたいと考えています。組織として、下小山田だけで動きたいというご意見については、持ち帰って調整しますが、市では地区連絡会と周辺まちづくり協議会をベースと考えています。

(市民)

3点ある。まず、一つ目、私はごみゼロ市民会議に参加したが、その中では、小山田だけに集中していた施設を町田市内地域ごと、たとえば鶴川、玉川学園、町田のような、大量の飲食店があったり、人口密集があったり、それぞれの地区ごとで処理できるような分散化を考えていたので、今回分散化と聞いて喜んでいた。しかし、何故か相原と小山田と南という人口密集地以外の地区に何箇所か造るだけで、さらに生ごみについては結局小山田に集めて分散化とすることになり違和感があった。分散化というなら、各地域ごとの処理のような、検討が今まであったのか、または今後する予定があるのか。

二つ目に、プラスチックについては、3箇所ということになっているが、町田市で行政回収する以外に、市内全域のスーパーでも、発泡トレー以外の透明トレー等も行われるようになると、かなりのごみ減量になると思う。町田市で収集する以外の方策について検討されているのか。鶴川でもペットボトルと空き缶については、ポイント制にして商店街が集めた人に買い物券を与えるといったステーションのようなものがある。このようなものを分散して各地に作って回収するといった検討はされてきたのか、または今後されるのか。

三つ目は、小山田の焼却施設が老朽化して危ないと強調されているが、広報を見ている限り、そういった危機感は伝わってこない。もし、危機感があって、施設をどこに造るにしろ、2020年までに40%削減を絶対やるということであれば、例えば生ごみ処理機は予定ほど広がっていないと思うが、それを広げるための工夫、例えば各地のお祭りでPR活動をしたり、あくまで例だが町田市長が生ごみ処理機を背負って各地の祭りに来るくらいのPRをやって生ごみ処理機を広げる活動や、今まで広がらなかった原因も含めて検討するなど、2020年までに40%削減を達成するような気がするのか。

(町田市)

一つ目にご質問いただいた分散化の話ですが、ごみゼロ市民会議の成果を受けて分散化という議論をして参りました。分散化して行こうと進め、場所の選考にあたりましては、町田市全体を白紙の段階から絞り込んでいった経過があります。どうして3箇所なのかということですが、多数造った方が、ごみを出す方の意識は確かに高まるということはよくわかりますが、だからといって、それをたくさん造りますと、その施設それぞれに人も設備も付き、費用も当然かかります。そうしたことで、数については限定した施設数しか造れないというこ

とをご理解ください。いずれにしましても、分散して意識を持っていただくということにつきましては全く変わらない方向で考えております。

二つ目について、鶴川の団地でエコポイントを利用してペットボトルを回収しているという事は、市の方でも承知しているところです。ただ、新しいスーパーでどういったことが行われているかということについては、市としてもまだリサーチしていかなければいけないと思っています。これからやる事業のひとつにあるのですが、エコ宣言制度といいまして、ごみだけの話だけではありませんが、事業者のリサーチをかけながら、環境配慮を行っている事業者エコ宣言をしてもらい、取り組みを紹介し、環境配慮型の事業活動を促進します。また、冒頭にも小型家電のお話しをしましたが、7月1日から各市民センターや町田リサイクル文化センター、リサイクル広場でも回収を始めてまいります。市内大型家電量販店等にもお話しをしながら、事業者と一緒にごみ減量を考えていきたいと考えています。

三つ目についてですが、焼却炉はお金をかければ炉はこれからも継続して操業は可能です。古くなればなるほど直す箇所が増え、お金もかかってきます。それから、排ガスの基準をもっと下げたくても、今の焼却施設は30年前の基本設計なので、厳しい規制を課せられたときにクリアできません。今の基準で何十年も稼働するのであれば、毎年数十億の金をかけながら運転することは可能です。

お金をかけずに、厳しい基準を作って、コンパクトな設備を早く造りたいという方向性を町田市は出しています。危険だから建替えたいのでは無く、環境負荷を抑えて、安全性を高めるということで早めに新しい設備を造りたいということです。

(市民)

町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会について、私もずっとひっかかっていたことがある。ごみ処理施設を新しく造るときに、市のトップは何を考えるか。候補地をある程度イメージできないと進められない。実際に検討委員会で何をしたかということ、「点数付け検討委員会」であった。102点満点の91点は町田リサイクル文化センターが最高得点を付ける項目になっている。それから、分散化とかいろんな意見があったけれど、私がずっと思っていたことは、町田市のトップがこうしたいと思う事を協議会なり検討委員会が実際には町田市民の声として作ってしまった。小山田に造るという形で造られたものである。だったら、市長なり副市長が来て、「ここしかないからここに造ります。よろしくお願ひします。」ってそっちの方がよっぽどすっきりしていた。次の周辺まちづくり協議会が一番心配である。いろんな地区の人を集めて、地元の意見では無く、市全体の意見はこうなんだといって不利なことを小山田に持ってくる。小山田の意見は反映させない危険性は十分にある。そういう意味では、協議会の構成は、地元以外の人はいらない。これは今までの候補地決定の流れから言ってそう思う。

(町田市)

検討委員会の選定項目について、ここに造るための項目と言われましたが、それは日本全国、最近造られた施設も見ていただくとわかりますが、基本的に同じです。項目は客観的にしか作ることはできません。それは市長の意見として捉えた物として議論したと言われると違う

という事だけのご理解ください。

(市民)

「リスクを公平に負担する」という項目を作ったら、こんなことにはなっていないはずである。

(市民)

地元の要望を真剣に考えてくれるのは大前提だが、それよりももっと最初にここに造るのだとしたら、市としてこういう事をやりますという事を事前に出してもらえばよい。それに対し、こういうところが足りないということを地元が補足するくらいで、市としては、地元「今だけやるからやらせてください」という事を前向きに出す事が先決である。それを何にも出さないで、「これだけ造らせてください。皆さんの要望を聞きます。」ではなく、この地域の要望は聞いているであろうから、それを市には出していただきたい。

(市民)

地区連絡会、また全市的な協議会にもっていくと、やはり下小山田の意見が薄まってしまう懸念がある。私達町内会としては、施設整備の計画については今後私達が考える様々な地域の要望を、市に丸飲みしていただいて基本合意しようという意見を私は持っている。また町内会の会員の人たちの意見を聞いてもやはり今まで50年間ごみのまち小山田で来て、また何十年というごみの山小山田が続く。先ほどリスクの分担、公平負担とも言われたが、まさにそのことを、これから市と下小山田だけの会議の中でやっていきたいと思う。下小山田町内会は町内会のみで連絡会をしたいと思う。今後、他の町内会の方々はここには入れないという形でやっていきたいと思う。これは要望である。